

### 半促成ピーマンでアザミウマ類の発生が多くなっています。

圃場をよく観察し、アザミウマ類が多発生している場合は、  
速やかに薬剤防除を実施してください。

[現在の発生状況]

- ① 4月下旬現在、半促成ピーマンにおけるアザミウマ類の寄生花率(本年値 72.5%, 平年値 34.2%), 被害果率(本年値 25.0%, 平年値 9.1%)ともに、平年より高い(図1, 2)。

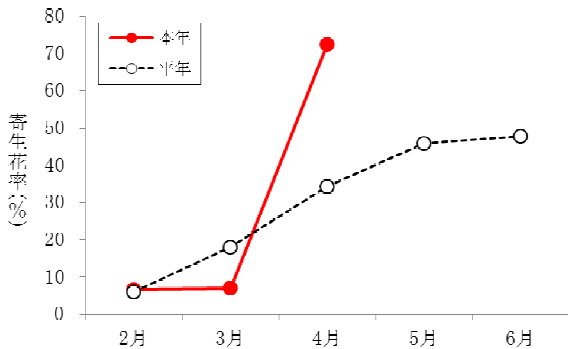


図1 アザミウマ類の寄生花率の推移

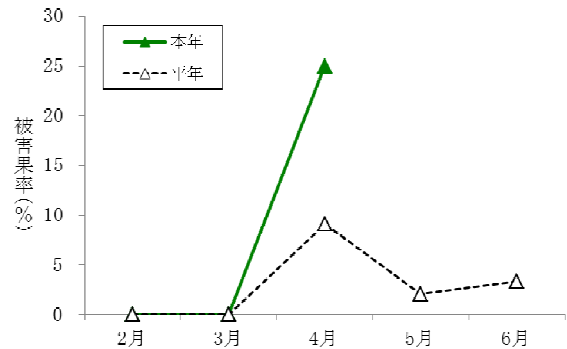


図2 アザミウマ類の被害果率の推移

[防除対策]

- ① 青色粘着トラップを10a当たり100枚以上設置すると、アザミウマ類の密度低減に有効である。
- ② アザミウマ類が多発生している場合は、下表を参考に速やかに薬剤防除を行う。天敵を導入しているハウスでは、天敵への影響に留意する。
- ③ 防除の際は、薬液がアザミウマ類の生息部位である花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。なお、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、下表を参考に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ アザミウマの種類により効果のある薬剤が異なるため、被害の特徴等から発生しているアザミウマの種類を明らかにし、薬剤の選定を行う。

表 ピーマンのアザミウマに登録があり、収穫前日まで使用できる主な薬剤(平成26年5月1日現在)

薬剤名	系統名	適用病害虫 <sup>2)</sup>	本剤の使用回数	天敵農薬(成虫)への影響 <sup>3)</sup>	
				スワルスキーカブ <sup>®</sup> リタ <sup>®</sup> ニ	タイリクヒメハナカメムシ
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド <sup>®</sup>	アザミウマ類	2回以内	×	—
ディアナSC	マクロライド <sup>®</sup>	アザミウマ類	2回以内	—	—
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド <sup>®</sup>	ミキミイアザミウマ	3回以内	—	—
カスケード乳剤	I GR	ミキミイアザミウマ	3回以内	◎	◎
プレオフロアブル	その他	ミキミイアザミウマ	2回以内	—	—
コテツフロアブル	その他	ミキミイアザミウマ ミキミイアザミウマ	2回以内	—	◎
モベントフロアブル <sup>1)</sup>	その他	アザミウマ類	3回以内	—	—

1) 幼虫に対する効果および、産卵数の抑制と産下卵の孵化阻害効果に優れる。

2) アザミウマ以外の適用病害虫は省略した。

3) 天敵に対する影響は、野外・半野外試験では◎:死亡率0~25%, ×:75~100%, —:試験事例無し  
室内試験では◎:死亡率0~30%, ×:99~100%, —:試験事例無し, とした。

(日本バイオリジカルコントロール協議会天敵影響表第22版より抜粋改変)